

性暴力を含む児童虐待等について



肥塚康子 議員

KOEZUKA YASUKO



性暴力を含む児童虐待等について

問 児童虐待の問題はDVとの関連も大きく、社会全体で取り組むべき問題だが、どのような対策・連携をとっているのか。

答 児童福祉課内の「子育て応援センターすくすく」に情報が集約され、関連機関と連携し適切な支援を行っている。妊娠期からの切れ目のない相談・支援対策が重要と考える。

問 子どもの頃に受けた性暴力の被害が明るみになってきている。性教育の見直し・男女の人權教育の充実などが重要と思うが、どう考えるか。

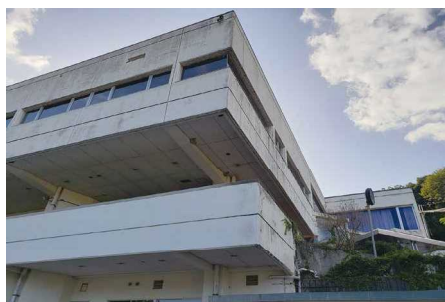
答 学校・家庭・地域と連携し、それぞれの年齢に合った教育を行っていく必要があると考える。



スポーツ施設の老朽化対策と管理体制について

問 市立体育館及びスポーツセンターの再編計画の現状はどうか。また、利用者の声は反映されるのか。

答 利用状況・圏域の分析を行い、施設の再編を検討している。御津体育館など、老朽が進む施設についても、市民の意見を聞きながら利用しやすい機能確保に努めていく。



▲市立御津体育館

問 施設の管理体制はどうか。

答 修繕が必要な箇所については計画的な修繕を行っている。管理は教育委員会が行うものと認識している。

市民が今までと同様に利用できる施設環境を整え、より一層のスポーツの活性化を願う。

災害対策のため、河川整備計画の見直しを



赤木 和雄 議員

AKAGI KAZUO



災害対策について

災害対策は重要課題であり、昨年から今年に起こった河川災害の状況から、現行の計画見直しなどについて以下を問う。

問 本年、東日本等で起こった災害に対し、一級河川揖保川の管理者である国土交通省からはどのような情報を受けているか。

答 国は、県が実施した計画規模の降雨を対象としたシミュレーションを既に実施しており、これに基づき洪水浸水想定区域を公表している。しかし、現時点の河川整備計画は昭和51年の降雨量を基準にしており、今回県がシミュレーションした降雨量では流下能力の不足が生じるため、今後においては、河川整備方針の見直しが必要となることであった。

問 揖保川は、国道179号竜野橋付近の川幅が狭い事に不安

の声があるが、市としての考え方はどうか。

答 国土交通省に問い合わせたところ、現時点での竜野橋地点においては、河川整備計画で目標とする流量を超える十分な流下能力を有している。

しかし、今後は、河川整備計画で目標とする流下能力を超える規模の洪水が発生する可能性が有るため、防災上の備えは重要であるとの回答があった。

問 半田神戸中央雨水幹線による、揖保川地域での浸水対策の効果はどのようになっているか。

答 雨水幹線が設置される前の、平成16年の台風21号では、床上浸水は41世帯の被害があったが、雨水幹線完成後の、平成24年以降の台風や昨年の西日本豪雨でも床上浸水がない事から、浸水被害の軽減に効果があったものと判断している。

しかし、当流域の浸水被害軽減の根本的な対策としては、馬路川排水機場の排水ポンプの増設が欠かせないため、引き続き国土交通省に要望している。